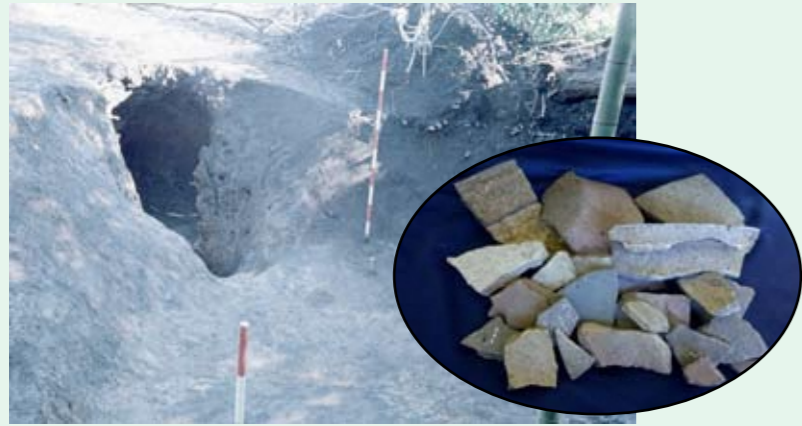


# 平代坂遺跡と周辺の中世の痕跡



Heidaizaka Site  
 市内最古の板碑  
 [市指定文化財]  
 弘安10年(1287年)の年号が入る。平代坂遺跡南方の薬師道で出土した。  
 ブックレット1『小金井の石造物』より

## 平代坂遺跡 どんぐりの森公共緑地

ゆるやかな斜面で地下式坑が1基発見された。階段を降りたところに横穴が掘られている。室内からは室町時代(14世紀代)の甕や播鉢・碗等、複数の陶器が出土。床には灰と炭が残っていた。

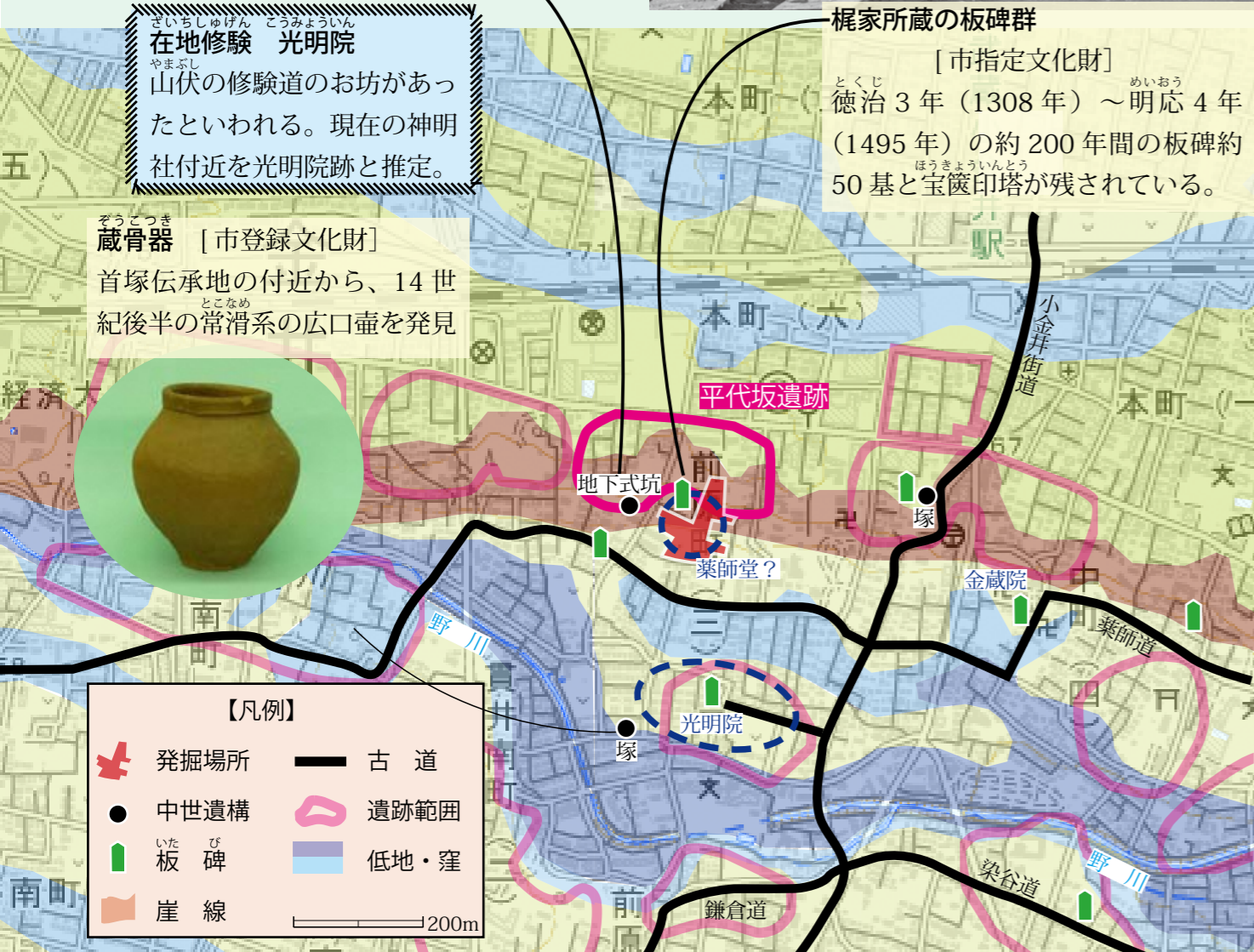


## 梶家所蔵の板碑群

[市指定文化財]  
 徳治3年(1308年)~明応4年(1495年)の約200年間の板碑約50基と宝篋印塔が残されている。

在地修験 光明院  
 山伏の修験道のお坊があったといわれる。現在の神明社付近を光明院跡と推定。

蔵骨器 [市登録文化財]  
 首塚伝承地の付近から、14世紀後半の常滑系の広口壺を発見



主 催：小金井市教育委員会  
 開催協力：三井不動産レジデンシャル(株)・三井住建道路(株)  
 ・特定非営利活動法人井草文化財研究所  
 平代坂遺跡 遺跡見学会資料  
 発行日 令和4年3月26日  
 編集・発行 小金井市教育委員会生涯学習課

# 平代坂遺跡

# 遺跡見学会資料



平代坂遺跡は、旧石器時代や縄文時代・古墳時代・室町時代の異なる時代の遺構・遺物が見つまっている複合遺跡です。小金井市内の遺跡は、縄文時代(草創期~後期)のものが圧倒的に多く、旧石器時代も多く見つかります。一方で、弥生時代以降の遺跡の数は激減し、中世(鎌倉時代~戦国時代)の遺跡の発見例もごくわずかです。  
 小金井は、膨大な古文書(紙資料)が残る江戸時代に対して、中世文書は存在しません。そのため中世の小金井の実態は不明瞭です。



令和4年2月から始まった発掘調査では、特に室町時代の井戸や地下式坑・境堀が発見されました。陶器の鉢や青磁の器等の14世紀~15世紀代の遺物、中国銭が出土しています。中でも、複数基の板碑(板石塔婆)が重なる状態で発見された板碑廃棄土坑は市内では初事例です。板碑には年号が刻まれており、古文書のない中世小金井を伝える情報源です。  
 今回の調査地点の内容からは、宗教空間としての土地利用が垣間見れます。それは在地修験・土豪との関りを示しているのかもしれませんが。これまでの調査結果から、平代坂遺跡を含む前原町3丁目一帯は中世の匂いかおる地区、つまりは中世小金井の中心的な地域であったと推測します。

# 発掘調査で発見された主な遺構・遺物

ちゅうせい  
中世（鎌倉時代～戦国時代）

遺構：地下式坑、井戸、境堀、溝状遺構、柱跡  
遺物：板碑、国産陶器（甕・鉢）、中国銭・磁器

きんせい  
近世（江戸時代）

遺構：溝状遺構、砂利敷き遺構、植栽痕ほか  
遺物：灰釉德利、碗

※今後の調査・分析の結果、遺構の性格が変更となる場合があります。



板碑廃棄土坑【中世】  
土坑内に複数の板碑が重なる形で出土。意図的（儀礼的）な廃棄と考えられる。右上の板碑には文明3（1472）年の造立年が刻まれる。



井戸①【中世】  
平面形は円形、断面形は漏斗形

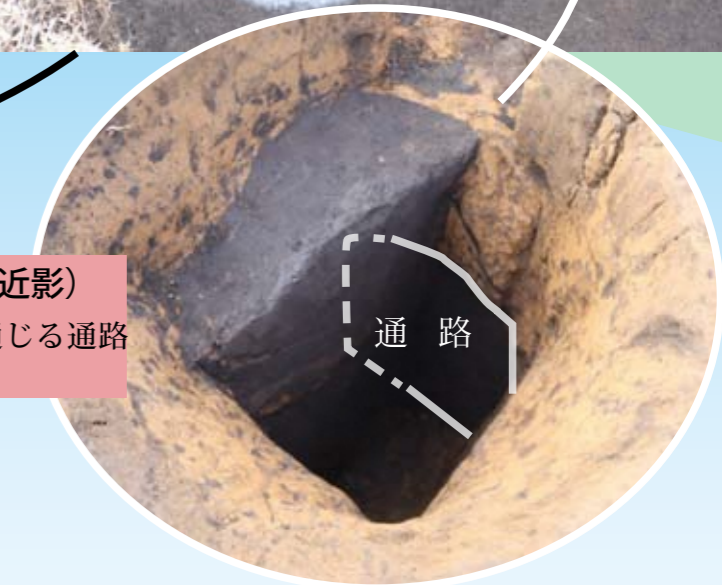
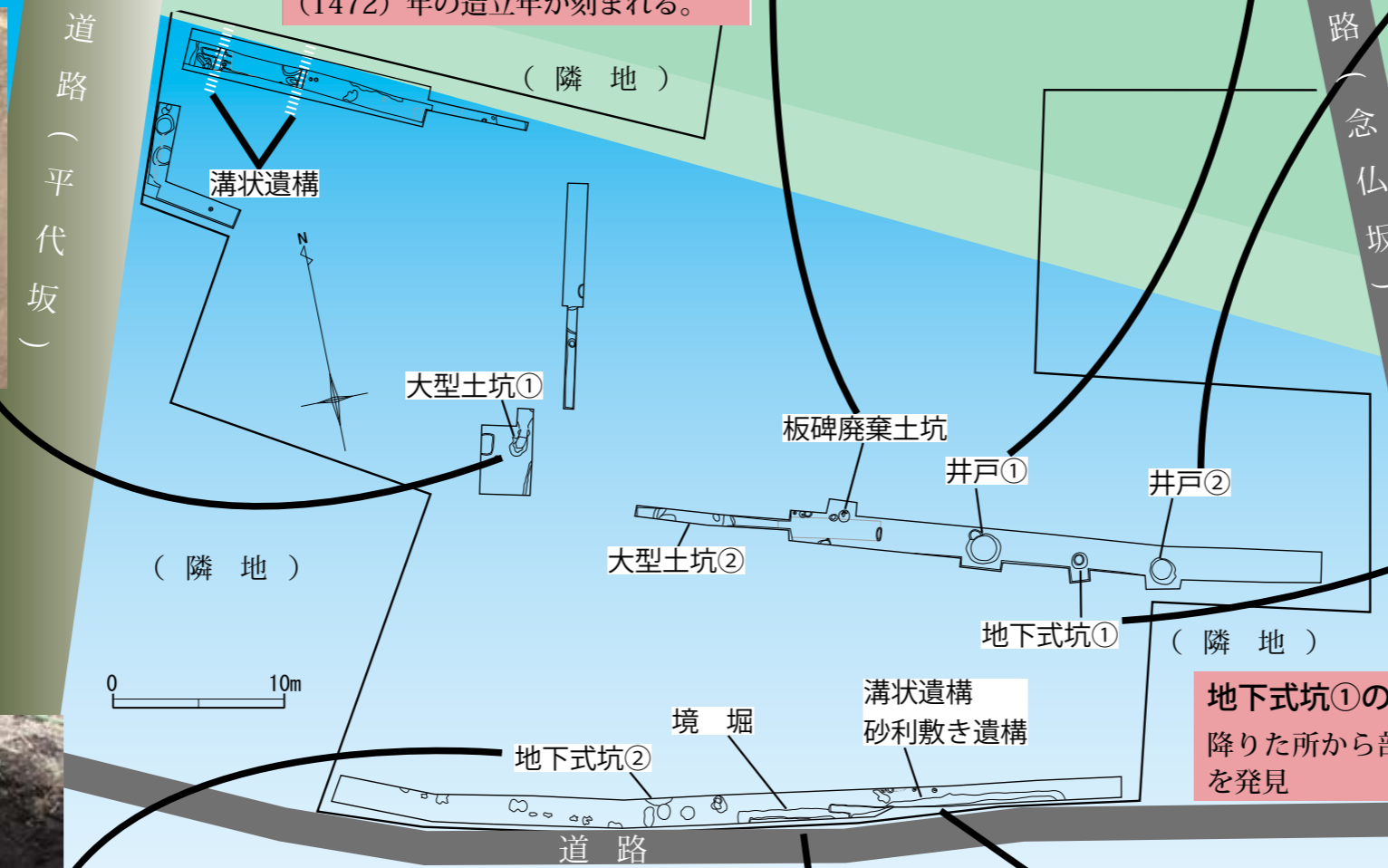


井戸②【中世】

↓地下式坑①【中世】  
地下式坑は地下室の一種である。2つの穴に見えるが、奥側が入口の竪坑部。手前が部屋であるが、ドーム型の天井が崩落している。宗教・修験に関わる遺構の可能性はある。



大型土坑①【中世～近世】  
南側に階段、奥側に部屋がある。天井は崩落している。



地下式坑①の入口（近影）  
降りた所から部屋に通じる通路を発見



地下式坑②【中世】  
入口の竪坑と部屋に分かれる。地下式坑①と同じで部屋内は空洞であったため、後世に崩落している。



境堀【中世】  
屋敷地の境界を示す堀（溝状遺構）。境堀の埋没後、境界は生垣として継承される。



砂利敷き遺構【近世】  
古い溝を埋めて、砂利が敷かれている。割られたトックリも混じる。